



2025年5月1日発行
(毎月1日・1回発行)
1988年1月27日第3種郵便物認可
定価50円
発行/
公益財団法人横浜YMCA
広報センター
〒231-8458
横浜市中区常盤町1-7
Tel 045-662-3721

横浜青年

YMCA NEWS 5

すべての子どもとユースの成長のために 多様な体験の機会を提供していく

横浜YMCAでは、創立150周年となる2034年に向けた将来計画「VISION 2034」を策定し、その実現に向けて歩みを進めています。この計画は、2034年に、どのような社会を目指すのかを見据え、持続可能な地域社会の実現を目指す長期ビジョンです。計画では、子育て子育て生活のクオリティの向上「ユースエンパワーメント」「社会に貢献」の4つの領域を掲げ、今年度は第2期中期3カ年計画の中間年として、各領域に取り組んでいます。今号ではその中の「子育て子育て」について考えていきます。

横浜YMCAは、創立150周年を迎える2034年に向けて、より良い社会の実現と持続可能な組織づくりを目指す長期計画「VISION 2034」を2021年4月に策定しました。その中核を担うのが、第2期中期3カ年計画です。この計画では、子どもからユース(18歳以上35歳未満)へと成長していく過程に寄り添いながら、継続的かつ段階に応じた支援の構築を目指しています。

新型コロナウイルス感染症の影響により、第1期中期計画で計画されていた多くの事業やプログラムが中止・延期となり、事業運営に大きな支障が生じました。外出の機会が減る中で地域とのつながりが薄れ、高齢者や子育て家庭へのサポートとしてオンラインによる健康づくりや子育て支援プログラムを展開してきましたが、感染症による経済的打撃は想定以上に深刻で、特に家庭における経済格差が拡大し、子どもたちの健やかな育ちに



▲子育てを地域で支える環境づくりの機会につなげていく親子プログラム

現在、共働き家庭やひとり親家庭の増加、地域との関係性の希薄化など子育てを取り巻く環境がますます厳しくなっています。特にひとり親家庭では、経済的・時間的余裕のなさから、学びや遊び、交流の機会が限られる子どもも少なくありません。また、外国にルーツのある家庭では、言語や文化の壁、孤立感により地域とのつながりが築きにくく、支援が届きづらいなどの問題もあります。このように、子育て家庭の多様化に伴い、それぞれの背景に応じた柔軟で包摂的な支援が求められています。

このような問題に対し、横浜YMCAは第2期中期計画のもとで、より的確で持続的な支援を展開することとし、第1期で掲げた24の重点項目を16項目に再編成し、2025年度の中間目標の達成に向けて取り組みを進めています。

その中で「子育て子育て」の領域は、重要な取り組みとして位置づけられ、二つの重点項目を柱に事業を展開しています。一つ目は「すべての子どもとユースの成長のために」。健康や栄養、運動への理解と習慣づくりを目的とした「ヘルシーキッズ&ファミリーキャンペーン」「体力向上キャンペーン」を通じて、親子で日常生活を見直し、運動や食生活の習慣化を支援しています。二つ目は「地域力を高め、子育てを地域で支えるプログラム」の開発です。保育園との連携による健康教育、親子で参加できる体験型プログラムの提供、子育てに関する情報の共有、フードバンクとの協働、子ども支援基金による支援が含まれます。これらの取り組みを、地域の多様な方々とともに進めることで、地域全体で子育てを支える環境づくりを推進しています。



VISION2034 [FOR HEALTHY LIVING] 一人ひとりの存在が大切にされる平和な世界に向けて、すべての人の「Spirit」「Mind」「Body」が豊かに生まれ、自ら「Quality of Life」を向上させていくために



食への関心を高め豊かな成長 YMCA 保育園の収穫体験

横浜YMCAの14の保育園では、子どもたちがいのちと食に関心をもち、栽培や収穫などの体験を通して、自然の恵みやいのちに感謝する機会を共に過ごしています。幼保連携型認定こども園YMCAオペリン保育園では、農村伝道神学校(町田市)の農地を子どもたちが耕し、定期的な畑の手入れをしながら、植えたさつまいもの苗を育て収穫し、園で調理し皆でおいしく食しました。保育園では、子どもたちの成長の土台となる「食」を通して豊かな成長につなげています。



地域のニーズに応える 「こども食堂」を開催

子どもがひとりでも気軽に立ち寄って食事ができる場所「こども食堂」は全国で10,866カ所あるといわれています。YMCA東とつか保育園・YMCA東とつかセンターでは、地域活動の一環として2月22日に「こども食堂」をYMCA東とつかセンターにて開催しました。子どもと大人がカラーライスを食べながら、ボランティアによる演奏を楽しんだほか、運営には6人の学生ボランティアの協力がありました。地域で子どもたちの成長を見守る取り組みの一つとして継続していきます。



体験格差の解消に 子ども支援(BAPY)基金

横浜YMCA子ども支援(BAPY=Be A Partner of the Youth)基金は、すべての子どもたちが公平にさまざまな体験の機会を得られるよう、横浜YMCAのキャンプなどの参加費の一部を支援するものです。支援者の輪を広げようと、2月には「第1回子どもたちの未来のためのコンサート」(主催 湘南とつかYMCA運営委員会)、3月にはチャリティーゴルフを開催しました。基金を通じて子どもやユースの体験格差の解消を目指し、2024年度は58人に基金が用いられました。



地域で子育て支援 親子やファミリーのプログラム

子育ての悩みやストレスを一人で抱えないよう地域で子育てを支えようと、横浜YMCAでは親子やファミリー向けのプログラムなどを展開しています。毎月第4金曜日には横浜市踊場地区センター(指定管理者横浜YMCA)にて親子を対象とした「のびのび体操」を実施しているほか、YMCA山手台センターなどでは「ベビースイミング」も行っています。これらの活動を通して親子や参加者同士のつながりを育み、地域で顔の見える関係を築き子育て支援につなげます。



ホドス

本年5月は、常盤町の横浜YMCA初代会館設計者・ヴォーリスの没後61年目に当る。初代会館は落成後7年目の1923年9月に関東大震災で被災し、内部は焼失したが建物は崩壊を免れた。耐震構造が優れていた証拠と言える。ヴォーリスは1905年、アメリカのYMCAから派遣された英語教師として、近江八幡の滋賀県立商業学校に赴任した。彼の英語授業は極めて好評で、商業学校のほか彦根中学校と膳所中学校でもクラスを持った。海外宣教師となる強い意志を持っていた彼は、放課後などにバイブルクラスを開いたところ、各学校から大勢の生徒が集まり、熱心な聖書の学びが始まった。その中から受洗する生徒も出てきた。こうした動きに学校側や県の学務当局が警戒心を強め、彼は赴任2年後の1907年に解職処分を受けることになった。しかし、近江の地でのキリスト教伝道に強い意思を固めた彼は、そのまま地元に残り、日本における伝道活動に83年の生涯を捧げた。その伝道活動の資金確保の一助として始めたのが建築設計であった。彼は日本の多くのYMCA会館を設計したが、前記の地震対策のほか、換気に配慮した窓の設置や屋内における体育館・プールの設計などにおいて、彼のYMCAに対する深い愛情が表現されていると言われている。▼彼は一人の信徒伝道者として、特定教派に属さない福音伝道を目指した。YMCAを愛する伝道者として、YMCA会館の設計に取り組んだのである。(茂)

YMCA NETWORK NEWS

Topics 140years of HISTORY 横浜市以外の拠点 藤沢YMCA開設 vol.14

横浜・関内にあるYMCAには、藤沢・平塚市方面に居住する方で、YMCAの事業に参加する会員・生徒が増え、1976年にはその数が300人を超えていました。横浜YMCAでは新しい構想として初めて横浜市を越え、神奈川県という広域での活動を視野に入れた事業展開として、JR東海道線藤沢駅から350メートルの藤沢市鶴沼石上に、藤沢YMCAを建設することになりました。

YMCAの運動を広く神奈川全域に広めることを目指し、1977年に藤沢教会で開かれた準備委員会には、YMCA会員の数人に加え、日本基督教団、カトリック、聖公会などの各派のキリスト教会から推薦された代表者が集まりました。「湘南と呼ばれるこの地域に、キリストの愛の教えに根差すYMCAの活動拠点を築こう」という理念のもと、「仕えられるものから仕えるものになる」「共に生きる社会を目指そう」といった目標を掲げ、藤沢YMCAの活動が始まりました。

1977年6月18日に起工式が行われ、1978年3月4日に落成、献堂式では神奈川県知事が祝辞を述べました。プールには北YMCAに続いて田中忠雄画伯による「イエスのエルサレム入場」の画が描かれました。同月には開館記念プログラムとして4回にわたり「教育を考える」と題した講演会が開催され、上智大学学長・ヨゼフ・ピタウ氏、元文部大臣永井道男氏、立教大学教授室俊司氏、教育評論家で元鶴沼中学校校長杉山智雄氏が講演を行いました。

▲横浜市以外の拠点設置研究の結果、藤沢市に竣工した藤沢YMCA(1978年)

ポジティブネットをひろげよう
～今月のよくなる一歩～

やまもり
山や森の
ゆたまも
豊かさを守ろう
(Responsibility 責任感)

大和障がい児・者とともに 輪和Waコンサート

3月15日に、大和市保健福祉センターホールにて「障がい児・者とともに歩む輪和Waコンサート86」(主催 大和YMCAライフサポートセンター 同実行委員会)が開催された。会場には障がいのある方とその介護者、ロビーにてパンや手作り品を販売した地域の作業所関係者とボランティアなど合わせて205人が参加した。コンサートでは、ピアノ奏者のサファロバグルナラ氏、バイオリン奏者の生田ナタリア氏、フルート奏者の東大輔氏、ソプラノ歌手山口則子氏(大和YMCA運営委員、4面)参照による出演者たちがクラシック音楽を奏でた。



コンサートは「障がい者の存在を知る」「その個性を理解する」「共に歩もう」という開催当初からの3つのミッションが引き継がれている。会場では最後に「見上げてごらん夜の星を」を全員で歌い笑顔があふれた。

子どもの意見が尊重される社会の実現へ 横浜市こどもの意見表明支援事業」4月からも継続して受託

意見表明支援員の養成や派遣などに取り組む



▲子どもたちが自らの意見や希望を安心して伝えることができる社会に

横浜YMCAでは「V.I.S.I.O.N 2034」にて「子育て育ち」の領域において地域とともに、多様化する家族に必要な支援を継続的に取り組むことを重点項目として進めている。そこで、横浜市が行っている「こどもの意見表明支援事業 業務委託」公募型プロポーザルに申請し、2024年9月から2025年3月までを1回目、同年4月から2026年3月31日までを2回目として事業を受託している。

1989年に採択された「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」にある、子どもを普遍的な人権の一環として位置づけ、子ども自身が権利を行使する主体であることを明確に示し「差別の禁止」「生命・生存および発達に對する権利」「児童の意見の尊重」「児童の最善の利益」の4つの原則が示されている。日本においても、この条約の理念を踏まえ、2023年に新設されたこども家庭庁の方針に沿って「こども基本法」が施行され、子どもの意見が施策に反映させる取り組みが進められている。横浜市では、特に児童養護施設や里親家庭など、社会的養護を必要とする子どもたちが、自らの思いや希望を伝える機会を持つことが大切であるとしている。

子どもたちが家庭や学校、地域で自分の思いや困っていることを言えない・伝えられないことが、いじめや虐待、心の健康問題などに深く関わっているという社会的認識が広がっている。そういった背景のもと、この事業で行う子どもの意見表明支援は、社会的養護を必要とする子どもたちを対象として取り組まれる。本来、施設職員や里親などと

今夏もタイの課題を学ぶ グローバル・スタディーツアーinタイ



▲農作業をパヤオセンターの子どもたちとともに取り組んだ昨年の参加者

横浜YMCAでは、8月7日から19日に行われる「グローバル・スタディーツアーinタイ」の参加者を募っている。

対象は15歳(高校生1年生)から29歳までの(参加期間時)のユースとしている。(詳細は4面)参照。

このスタディーツアーは、横浜YMCAがバンコクYMCAと協働して取り組む児童保護プロジェクトとして行うYMCAパヤオセンターを訪問し、貧困や人身取引、子どもの性的搾取といったタイ北部における社会課題を学ぶ。またパヤオセンターで暮らす子どもたちの登校に付き添い、小学校訪問や農作

業やワーク、文化交流、山岳民族の村にホームステイをし、文化や風習に触れ、村の課題などを学ぶ。チェンマイYMCAでは環境問題などの地球規模の社会課題の学習に取り組む。

昨年の参加者はスタディーツアーを通してグローバルな社会課題を考え、広い視野を持つ機会になったと語っている。また、2024年10月から呼びかけている「YMCAPayaOセンターに自転車を送ろう」の募金は2025年7月31日(木)まで期間を延長して受け付けている。



た環境の整備が必要である。横浜YMCAでは、現在、意見表明支援員の養成、意見表明支援員の施設等への派遣、面談内容の確認と児童養護施設や児童相談所への共有と子どもへのフィードバックの依頼を行っている。

♪子育てランド♪ 黄砂対策のポイント

砂漠地帯の強風によって巻き上げられた大量の砂が運ばれてくる「黄砂」は、日本で春に多く観測され、最近では健康被害に関する注意報も耳にします。黄砂による症状は、咳やのどの痛み、鼻水やくしゃみ、目のかゆみ(結膜炎)、肌荒れやアトピー性皮膚炎も悪化させるといわれています。原因は、黄砂に花粉や汚染物質が付着し、それを吸い込むことでさまざまな症状を引き起こし、特に子どもや高齢の方は入院する場合もあると言われています。黄砂の健康被害を受けないための一番の対策は、黄砂にさらされることを防ぐことです。①戸外での外出時間を短くする ②外出時は不織布マスクなどを着用して黄砂を吸い込む量を減らす ③洗濯物や布団の外干しを避ける。帰宅時には衣服をはたいて入室し、すぐに着替える。またはシャワーを浴びる ④できる限り窓を開けない、こまめに掃除する。拭き掃除も効果的。空気清浄機を活用することなどが挙げられます。5月まで続くと言われていた黄砂飛来、体調に気をつけて元気に過ごしていきましょう。(金沢八景YMCA保育園 看護師 石田珠美)

富士山 5月18日大感謝祭

富士山YMCAグローバル・エコ・ウィレッジでは5月18日(日)10時から「大感謝祭」を開催する。



感謝祭では、ツリーイングや動物ふれあい広場、クラフトなどの手作り体験ができるほか、地元グループによる和太鼓演奏発表や富士宮やいづメンズクラブによる富士宮やいづの販売、2024年に50周年を迎えた静岡YMCAや富士山アクティビティフェス実行委員会の地元の皆様、富士ワイズメンズクラブ、富士山SDGsパートナーの企業や団体、富士宮市観光協会、富士宮市観光課などの皆さんの協力のもと行われる。申込み不要。雨天決行。

横浜市内の全YMCAにて「脱炭素取組宣言」(横浜市創設)

横浜YMCAでは、2月から横浜市が創設した、身近な省エネ活動を含む脱炭素化に取り組みことを宣言する「脱炭素取組宣言」を進め3月26日に、横浜市内のすべてのYMCA(指定管理施設・運営受託施設含む)にて宣言が完了した。



▲英語のクラスが終ると積極的に電気を消す子どもたち(湘南とつかYMCA)

横浜市では、脱炭素化は気候変動の緩和と持続可能な未来の実現に不可欠であるとして「脱炭素取組宣言」を推奨している。横浜YMCAでは、2019年から順次、各施設の電力を自然エネルギーへ転換するなど脱炭素化を推進している。また、職員によるSDGs委員会を中心に、各YMCAでのこまめな消灯やペーパーレス化など、一人ひとりができる身近なことから脱炭素化への取り組みを進めている。宣言したことを



通して、横浜YMCAの職員だけでなく、YMCAに連なるプログラム会員や維持会員、保育園や各プログラムの子どもたち、専門学生や保護者などとともに脱炭素化への意識を醸成し、各YMCAで取り組みを進めていく。

新職44人を迎えて2025年度 横浜YMCA入会・始業式

横浜YMCAでは、4月1日に横浜中央YMCAチャペルとライブ配信にて2025年度入会・始業式を行った。第一部入会式では、佐竹博 横浜YMCA総主事から44人の新入職員一人ひとりに辞令を手渡した。新入職員を代表し酒井雪花さんが「真摯に仕事に取り組み、社会に新たな



▲人に仕える働きを誓った入会・始業式

働きをしていきたいと思います」とあいさつした。第2部始業式では、最初に満山浩之牧師(日本ナザレン教団藤沢ナザレン教会)が2025年度横浜YMCA基本聖句テサロニケの信徒への手紙II章17節を用いて「隣人を自分のように愛して仕える働きをしていきたいと思います」とメッセージがあった。続いて佐竹博横浜YMCA総主事は、新職員に向け歓迎の言葉を述べた後、全職員に向けて「社会と人に奉仕する団体での働き人として、違いを認め、共に生きること、を自ら取り組み、より良い社会を創っていきましょう」と述べた。次に、2024年度下半期の顕著な働きと勤続10年・25年の職員表彰が行われた。最後に「横浜YMCAー私たちの使命」を交読して新年度をスタートした。

光州YMCAに長期派遣の 佐藤泰乃スタッフ3月に帰浜

横浜YMCAと光州YMCAは1977年から交流を続けている。2002年からはスタッフの長期研修相互派遣を行っているが、2024年4月から1年間、横浜YMCAから8人目として派遣された佐藤泰乃スタッフが任期を終えて3月17日に帰国した。佐藤スタッフは光州YMCAにて、主に光州YMCAの市民活動や青少年活動を中心に



に研修を行ったほか、光州の歴史や市民の社会参加のしくみなどについても学んだ。研修を終え帰浜した佐藤スタッフは「光州YMCAは市の委託を受け、子どもたちを市民の一員として社会に参加してもらうための支援に取り組んでいます。子どもたちが自発的に考え行動する場面やいきいきとした表情を見る機会が多くあり、光州YMCAの役割の重要性を実感しました」と語った。また現在、光州YMCAから長期研修派遣として受け入れているジャンチャムセム氏の研修をサポートしていきたいと述べた。

5月31日(土)に 会員総会を開催

横浜キリスト教青年会会則第19条に基づき、2025年度横浜YMCA会員総会は、5月31日(土)午後2時から湘南とつかYMCAとオンラインによるライブ配信にて開催されること、4月17日に行われた理事・常議員会において承認された。総会の実施方法や決議方法などについては、準備委員会(岡戸良子委員長)において検討が進められている。会員総会では、2024年度の横浜YMCAの事業・決算報告のほか、2025年度の事業計画・方針、予算案について協議、常議員の選出、会員表彰などが行われる。

FLASH NEWS

4月6日に行われた横浜朝鮮初級学校、川崎朝鮮初級学校、南武朝鮮初級学校の入学式にて「入学おめでとう応援隊」のボランティア計40人が、入学する子どもたちを見守り祝った。応援隊はさまざまな支援団体や個人がボランティアとして参加し、横浜YMCAからも毎年参加している。朝鮮学校に通う子どもたちへの嫌がらせや心無い言動がある中で、子どもたちが安心して過ごせるようにと願い活動を続けている。



5月24日(土)午後1時から4時に横浜中央YMCAにて「子どもやさしい空間研修会～避難所でも！地域で！みんなができる子どもの居場所づくり～」をテーマに(主催 神奈川県ユニセフ協会・共催 横浜YMCA)開催される。災害時における子どもの支援について、子どもの心身の回復と日常生活を取り戻すために欠かせない「子どもにやさしい空間」の考え方を学ぶ。参加費無料。申込みはQRコードから。



ワイズ YMCAs 奉仕に基づく親睦 コーナー 横浜つぎワイズメン&ウィメンズクラブ

ワイズメンズクラブはYMCAに対する国際的な奉仕団体であると同時に、親睦団体であります。横浜つぎワイズメン&ウィメンズクラブは、会員大会、YMCAフェスタ、チャリティーラン、バザーなど横浜YMCAのさまざまな行事に参加、協力するとともに、地域活動としては、障がい児・者とともにクラシック音楽を楽しむYou&Iコンサートを開催しています。親睦の面では、毎月の例会後の懇親会のほか、年に1回は他のクラブメンバーもお誘いし、富士山YMCAへのバスによる移動例会を行なっています。(横浜つぎワイズメン&ウィメンズクラブ) 会長 鈴木 茂

あるYMCAの総主事が仲間を送り出すときに「絶対」と言わないように」とアドバイスしたそうです。YMCAにとって大切な心構えとして私自身も常に気を付けなければならぬというも思っています。一方で迷いや不安にある自分の心を奮い立たせるために「絶対大丈夫」と胸の内をつぶやいていることはよくあります。先日見た映画「教皇選挙」の中で、「確信」することの危うさ、罪について語られる場面がありました。疑念と共に迷い悩みつつ、誤りを認めることのできる信仰の大切さを感じました。教皇を選出する108人の中にある、欲望や嫉妬心、他者との比較など私たちの身の回りにもありそうな場面がたく

ひとかき 確信

総主事 佐竹 博

さんある中、登場人物の一人が、誰と戦っているのか、内を向いてばかりで、外で起きていることに目が向いていないと諭します。私たちYMCAも自分た

きをし、善い言葉を語る者となるために、私たちYMCAは社会に目を向け、自分たちがすべきこと、そしてできることを考えていくことを大切にしています。会員総会を月末の31日に久しぶりに湘南とつかYMCAを会場に行います。会員の皆様と志を共にする機会にしたいと思えます。ぜひご参加ください。

「おわびして訂正させていただきます」 4月(先月)号印刷版の小欄にて「新しい年度が始まりました。」の前にあった「このバンドの」が削除せず印刷されてしまいました。バンドではなくYMCAの新年度のお話でした。訂正版は横浜YMCAウェブサイトにてお読みいただけます。

横浜中央YMCA Tel 045-662-3721
 横浜北YMCA Tel 045-433-4321
 藤沢YMCA Tel 0466-26-1151
 横須賀YMCA Tel 046-854-5126
 川崎YMCA Tel 044-932-2031
 厚木YMCA Tel 046-244-4181
 鎌倉YMCA Tel 0467-24-7859
 YMCA山手台センター Tel 045-813-1022
 湘南とつかYMCA Tel 045-864-4768
 金沢八景YMCA Tel 045-782-3003
 YMCA東とつかセンター Tel 045-392-3747
 大和YMCAライフサポートセンター Tel 046-264-3192

横浜YMCAワークサポートセンターアンジュ Tel 045-867-0090
 横浜YMCAワークサポートセンターレザン Tel 045-860-5252
 YMCAあつぎ保育園ホサナ Tel 046-222-8619
 YMCA山手台保育園アルク Tel 045-813-1022
 YMCAとつか保育園 Tel 045-870-3663

YMCAマナ保育園 Tel 045-790-3588
 YMCAとつか乳児保育園 Tel 045-870-3235
 YMCAつるみ保育園 Tel 045-500-5030
 YMCAかわさき保育園 Tel 044-520-1825
 YMCAいずみ保育園 Tel 045-800-3010

YMCA東とつか保育園 Tel 045-820-5588
 YMCA東かながわ保育園 Tel 045-440-3763
 YMCAたかつ保育園 Tel 044-281-7833
 金沢八景YMCA保育園 Tel 045-353-5130
 YMCAオベリン保育園 Tel 042-707-9974
 大和YMCA保育園 Tel 046-214-3192
 辻山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ Tel 0544-54-1151
 三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ Tel 046-888-2100
 鶴見中央YMCA Tel 045-508-7800
 YMCAライフサポートセンター鶴見 Tel 045-506-0131
 本部事務局 Tel 045-662-3721

INFORMATION

横浜YMCA



●感染症等の拡大防止のため、イベントを延期・中止させていただく場合があります。(参加費は税込み)

レクチャー

■イングリッシュセミナー

日時 5月16日(金)午前10時～正午
 会場 鎌倉YMCA・オンライン(Zoom)
 テーマ Thoughts on Health and Healthcare in Japan and England
 ゲスト Anne Ogawa さん(イギリス)
 参加費 会員1,200円、一般1,500円
 申込み kamakura_info@yokohamaymca.org
 問合せ 鎌倉YMCA Tel 0467-24-7859

イベント

■富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ「大感謝祭」

日時 5月18日(日)午前10時～
 会場 富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ
 内容 ツリーイングや動物ふれあい広場、クラフト体験ほか(詳細3面)
 申込み 不要
 問合せ 富士山YMCA Tel 0554-54-1151

■横浜YMCAグローバル・スタディーツアー in タイ

日時 8月7日(木)～19日(火)10泊13日

訪問先 タイ王国・バヤオ県、チェンマイ県
 対象 15歳(高校生1年生)～29歳のコース
 参加費 プログラム研修参加費(YMCA 手配)195,000円、旅行代金・渡航手続関連費用(旅行会社手配)135,000円、燃油サーチャージなどの費用55,000円(2025年3月21日時点)は含みません。
 説明会 オンライン4月22日(火)・25日(金)、5月1日(木)・10日(土)午後7時～8時
 申込み 説明会・申込みはQRコードから。定員になり次第締切。
 問合せ 横浜YMCA 国際・地域事業 Tel 045-662-3721

キリスト教理解

■とつか聖書を学ぶ会

日時 5月22日(木)午前10時30分～
 会場 湘南とつかYMCA4階404教室
 テーマ 聖書を楽しく学ぼう
 講師 堀野浩嗣氏(横浜戸塚バプテスト教会牧師)
 参加費 無料
 問合せ 湘南とつかYMCA Tel 045-864-4768
 ymsports@yokohamaymca.org

子育て支援

■横浜子育てサポートシステム入会説明会

日時 5月8日(木)午前10時～11時、23日(金)午後1時30分～2時30分
 会場 中区地域子育て支援拠点のんびりんこ
 対象 横浜子育てサポートシステムに入会を考えている方
 申込み 横浜子育てサポートシステム中区支部事務局 Tel 045-663-0676

■プレママ Day

日時 5月27日(火)午前10時～11時
 会場 金沢区地域子育て支援拠点とことこ第1子妊娠中の方
 対象 先輩ママ・パパとおしゃべりタイム
 内容 金沢区地域子育て支援拠点とことこ
 問合せ Tel 045-780-3205

採用説明会

■2026年卒スポーツインストラクター職採用説明会

日時 5月8日(木)10時～
 会場 横浜中央YMCA
 内容 採用説明会
 申込み マイナビ2026にてお申込みください。
 問合せ 横浜YMCA本部事務局 Tel 045-662-3721

学校説明会

■YMCA健康福祉専門学校

日時 【学校・入試説明会】
 5月10日(土)・24日(土)午前10時～/午後2時～
 19日(月)午後6時～
 内容 オープンキャンパス
 申込み QRコードからお申込みください。
 問合せ Tel 046-223-1441

■横浜YMCAスポーツ専門学校

日時 【学校・入試説明会】
 5月10日(土)・17日(土)・24日(土)午前10時30分～/午後2時～
 31日(月)午前10時～説明会&サッカー説明会。午後2時～説明会&マシン利用体験。
 申込み QRコードからお申込みください。
 問合せ Tel 045-864-4990

■横浜YMCA学院専門学校 国際情報ビジネス科 学校説明会

日時 5月10日(土)・24日(土)
 内容 オープンキャンパス
 申込み QRコードからお申込みください。
 問合せ Tel 045-661-0080
 gakuin-ji@yokohamaymca.org
 ご都合が合わない場合はご相談ください。

○各専門学校では個別の相談や見学などを受け付けています。ご希望の方は各専門学校へご連絡ください。

生け花体験 みどりクラブ

4月7日に、十日市場地域ケアプラザにて行われた第27回みどりクラブでは「生け花体験」を行いました。初めて生け花を体験する参加者が多かったため講師の手本を見てから実際に自分たちでバランスを考えながらきれいに花を生けることができました。その後、鶴ヶ峰にある自家焙煎珈琲店陽のあたる道に協力いただきコーヒーとさくらのシフォンケーキを食べながらウクライナの方たちが互いの近況を報告し合い、楽しいひと時を過ごすことができました。



ミャンマー地震緊急支援募金 各YMCAにて5月31日まで受付中

3月28日にミャンマーで発生した地震の被災者への緊急支援募金を各YMCAにて受け付けています。募金はアジア太平洋YMCA同盟などを通じて、マンダレー、ネピドーなどミャンマーYMCAが行う支援活動のために用いられます。横浜YMCAではミャンマーYMCAとの交流を1992年から続け、ネピドーYMCA(ピンマナ・イェジン)との無医村地域での移動診療ボランティアやタンゲーYMCAとの介護人材育成プログラム、災害時の緊急支援などのつながりを続けています。地震直後には現地YMCAから被災状況と関係者の無事の連絡が横浜YMCAに入りました。



140years of HISTORY

横浜YMCAは2024年10月に140周年を迎えました。140年のあゆみを写真で紹介します。



▲姉妹都市国際円卓会議(100周年記念事業 1984年)



「輪和Waコンサート」は、障がい児・者とともに歩むという理念のもと、故金井之広さん(元横浜YMCA常議員・大和YMCA運営委員)の発案により、大和YMCA運営委員会(当時、委員長高橋信夫氏)によってはじめられたコンサートです。金井さんは、ボーイスカウトリーダーとして活動していた際に、集団行動についていけない子どもたちが増えてきたなど感じるようになり、やがて、その子どもたちの保護者から、さまざまな相談を受けるようになり、ある時、「息子はクラシック音楽が好きなのですが、コンサートで静かに座って聴くのが難しく、コンサートに行けない」という声を耳にされたそうです。そこで金井さんは、「誰もが安心して楽しめるように、誰もが安心して参加できるように、誰もが安心して参加できるように、誰もが安心して参加できるように」と思い、「輪和Waコンサート」の開催を決めました。

「輪和Waコンサート」は、障がい児・者とともに歩むという理念のもと、故金井之広さん(元横浜YMCA常議員・大和YMCA運営委員)の発案により、大和YMCA運営委員会(当時、委員長高橋信夫氏)によってはじめられたコンサートです。金井さんは、ボーイスカウトリーダーとして活動していた際に、集団行動についていけない子どもたちが増えてきたなど感じるようになり、やがて、その子どもたちの保護者から、さまざまな相談を受けるようになり、ある時、「息子はクラシック音楽が好きなのですが、コンサートで静かに座って聴くのが難しく、コンサートに行けない」という声を耳にされたそうです。そこで金井さんは、「誰もが安心して楽しめるように、誰もが安心して参加できるように、誰もが安心して参加できるように、誰もが安心して参加できるように」と思い、「輪和Waコンサート」の開催を決めました。

My Y Story

184

「輪和Waコンサート」がYMCAとの出会い
 この思いを若い世代に紡いでいきたい
 大和YMCA運営委員
 「輪和Waコンサート」実行委員・出演者
 西口 則子

▲輪和Waコンサートに出演した皆さんと(右から2人目。2025年3月15日)